

11/28 土 13:30~15:45(13:00開場) ※日本語吹き替え・字幕あり
白山総合文化センターしらさぎホール

アニメ映画を鑑賞しながら、男女共同参画について考えてみませんか。

内容 プレトークと映画の上映

定員 先着297人(入場整理券が必要、代表者1人につき2枚まで)

申し込み はがき、またはEメールで映画整理券希望と明記し、代表者の郵便番号・住所・氏名・電話番号、希望枚数を男女共同参画室(〒514-8611 住所不要、☒229-3103@city.tsu.lg.jp)へ

※後日、入場整理券を郵送します。

申込期間 10月20日(火)~11月13日(金)必着

無料で託児を行います

対象 6カ月~就学前の子ども

定員 先着5人

申し込み 電話で男女共同参画室へ

申込期間 11月2日(月)~13日(金)

おわび 印刷版の広報津に誤りがあったため、配布した広報津と一部表記が異なります。



全ての人々が豊かに暮らしていける社会をめざして
~パラリンピックから学んだこと~

新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で、東京オリンピック・パラリンピックの開催は2021年に延期され、今後も予断を許さない状況です。その大会ビジョンには、「すべての人が自己ベストをめざし」「一人ひとりが互いを認め合い」「そして、未来へつなげよう」という3つのコンセプトが掲げられています。

私は、学生時代に陸上競技をしていたということもあり、オリンピックに対する関心は高かった方だと思います。しかし、同時期に開かれるパラリンピックに対してはそれほどではありませんでした。どこか心の片隅に「障がいがあるのに頑張っている」「不自由だろうな」という意識が働いていたからだと思います。

そのような私でしたが、ある日、テレビでパラリンピックの陸上競技を観戦したことがありました。「パラアスリートの記録を知りたい」と、ふと思ったのがきっかけです。最初はそんな思いで観戦していたのですが、いつの間にか、パラアスリートを「自分と同じ競技者である」と意識し始めていました。これが障がい者スポーツに対する私の見方が変わる契機となりました。

改めて競技者の目線で見たときに、アスリート

として自らの限界に挑んでいる選手たちの姿が初めて浮かび上がってきました。彼らが各々の持つ技術や精神力を最大限に生かして、世界一をめざす姿に、これまでにない感動を覚えたことを今でも思い出します。

私はこれまで障がいについて考えたことはあまりありませんでした。そのような私が、今回執筆する機会をいただいたことで気付かされたことがあります。

それは、障がいはどこにあるのかということでした。私は「障がいは、障がいのある人が考えるもの」という見方をしていました。しかし、例えば体の不自由さを障がいと感じさせているのは、実は自分を含めた周囲の意識や社会の環境であるという、今までの私にはなかった考え方に出会ったことで、どこか遠いものを感じていた障がいを身近なものとして考えられるようになってきました。

だからこそ、私はこの気付きを常に心に持ちながら、全ての人々が豊かに暮らしていける社会をめざして、自分に何ができるかを問い続けていきたいと思っています。

(20代・男性)